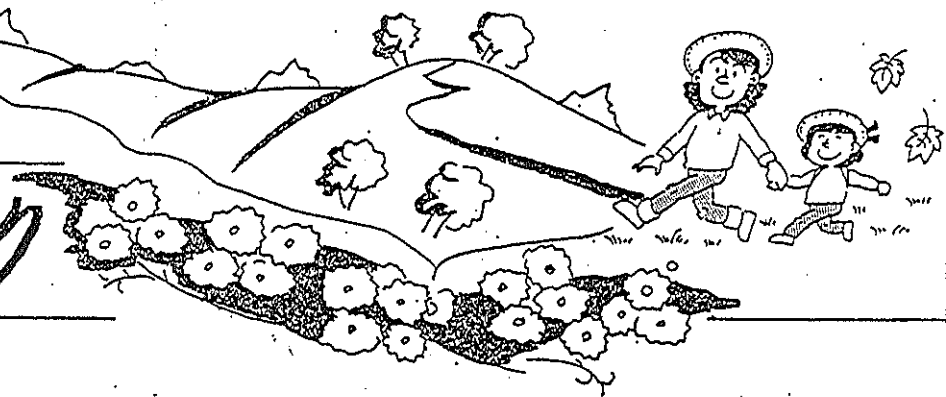


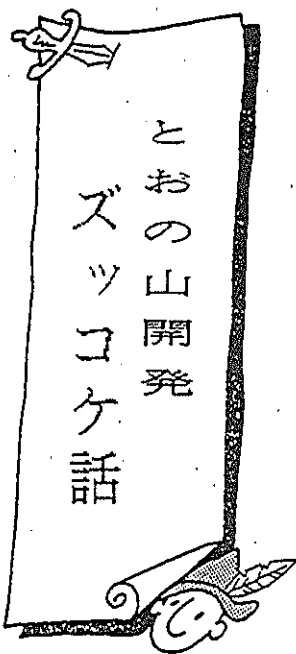
【桜木地区】

ふるさと創生だより

(余話)



桜木地区の「ふるさと創生だより・こぼれ話」を、平成2年第1報の余話として公民館だよりNO25(1月号)に掲載【とおの山に温泉が!!】しましたが、こぼれ話が好評でしたので、その続編として山の開発整備作業に係わる公民館主事の「ふるさと創生ズッコケ話」を紹介しましょう。



(その一)

「水脈探知は「コックリさん」

旧年十二月に専門家に地下水脈の探査を依頼して、山中を駆け巡りました。

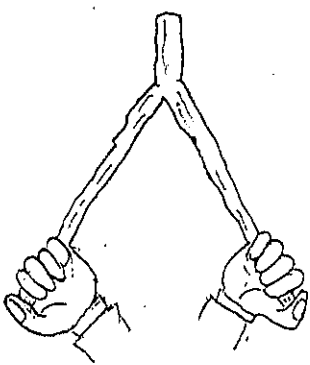
その探知機は、なんと「原始コンピューター」？の「コックリさん」。

このコンピューターのセンサーは、柳の木のY型の枝を両手に持つことから始まります。

地下水脈のある場所に来ると、その枝がグイッと下方に強く引かれるのです。

皆が皆、だれがやっても感知出来るものではなく、探知専門家のように永年この道に練達された人、つまりは「靈験あらたか」な熟練の士と言われる人だけが感知出来るようです。

事実、探査を手伝い立会した全員が試みましたが全くダメでした。



★ イラストは 原始コンピューター(センサー)の検知器(略図)です

このY字型の「柳枝センサー」？による確率は八十%だそうです。

真水、塩水、温泉脈の区別も出来るというから全く「オドロキ」です。

(なお、水道の地下配管の漏水を、これと似た方法で探知して歩くニュースをご存じの方もあると思います。)

エレクトロニクスの発達した現代において「コックリさん」はちゃんと生きていました

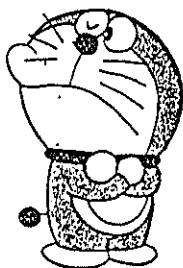
(その二)

【「シゴ」が大変!!!】

連日のように、実行委員が交替で山の伐採を実施しているが、木を切り倒すのはチェーンソーと言う近代的武器があるので簡単であるが、問題はその後である。

つまり、切り倒したままでは邪魔になるし、道のすぐ横に積み重ねておくのは目障りだ。そこで枝を落として邪魔にならない所まで引張って行かねばならず、これが大仕事。これほんとの話。

テレビのドラエモンにでも頼んで後始末ロボットを出してもらうと助かるのだが、どなたかドラエモン様の電話番号を知っている方はありませんか？



(その三)

「イガ」の木は大キライ!

「ばら」の木にはトゲがある。柏餅に使われる葉のある木にもトゲがある。この木も、ばらと同じで、どんどん枝つるを伸ばし、他の樹木にまとわりついている。

つるを切ろうとして枝つるを持つと、トゲが痛くて、まともには持てない。それでも無理に切ると、バネのようにハジキ返して頭にパツチーン。その痛みと頭の傷の痛みは格別の味です。

「山ぐみ」の木にもトゲがあるが、イガの木のトゲは始末が悪い。柏餅には必要な木ではあるが、とおの山の作業にイガは天敵だ。

ほんとに「イガ」は大嫌いだ。

